

# なごや認知症

# NEWS

# 「認知症」を正しく伝えるには

認知症の普及・啓発を行う独立型キャラバン・メイト交流会が開催されました。京都府精華町での取り組みを学ぶ中で、「一番大切なのは、認知症のご本人の声を届けること」というメッセージが印象的でした。今後もキャラバン・メイト同士で認知症の普及・啓発に努めていきたい、と参加者全員で目標を確認しました。

なごやの認知症の今が分かる

●発行●  
名古屋市認知症相談支援センター  
n-renkei@nagoya-shakyo.or.jp  
052-919-6622 052-913-8553  
※本センターは、名古屋市社会福祉協議会が名古屋市から委託を受けて実施しています。

## 認知症サポーター養成講座をとおして 認知症のご本人の声を発信していきたい

2月15日、「第三回独立型キャラバン・メイト交流会」が開催されました。キャラバン・メイトとは、「認知症サポーター養成講座」の講師役のことを言い、名古屋市では医療・介護関係者など、いきいき支援センター職員以外で活動しているキャラバン・メイトを、「独立型キャラバン・メイト(以下、独立メイトという。）」と呼んでいます。昨年度から「独立メイト同士で交流したい」「情報交換したい」という声を受けて、有志メンバーで話し合いながら、交流会の企画・運営を行っています。今回は三回目の交流会。30名の独立メイトといきいき支援センター職員26名の総勢56名が参加し、過去二回で共通課題として挙がっていた「認知症を偏見なく正しく伝えるコツ」について学びました。講師は、京都府精華町キャラバン・メイト連絡会の田中克博さん。「一番大切なのは、認知症のご本人の声を届けること」という言葉が印象的でした。それぞれの独立メイトが、日頃関わっている認知症当事者からきちんと思いを聞き、講座をとおして発信していくことで「認知症の正しい理解」につながるのだということを実感できた交流会となりました。今後も、独立メイト同士、切磋琢磨しながら、認知症の普及・啓発に努めていきたいと、目標を新たにしました。

## ◆認知症サポーターの状況

平成27年度、名古屋市では認知症サポーター養成講座を930回開催され、1万7961人の方に受講いただきました。なかでも、スーパー、介護や医療関係、小学校での開催回数と受講人数は前年度より増えています。地域住民、企業、学校や行政と様々な立場や年代の方に受講いただいています。講座は対象者に合わせて、講義のみでなくロールプレイや寸劇、グループワーク等を取り入れるなど内容を工夫しています。(講座を受講された方はお近くのいきいき支援センターか市認知症相談支援センターにお問い合わせください。)

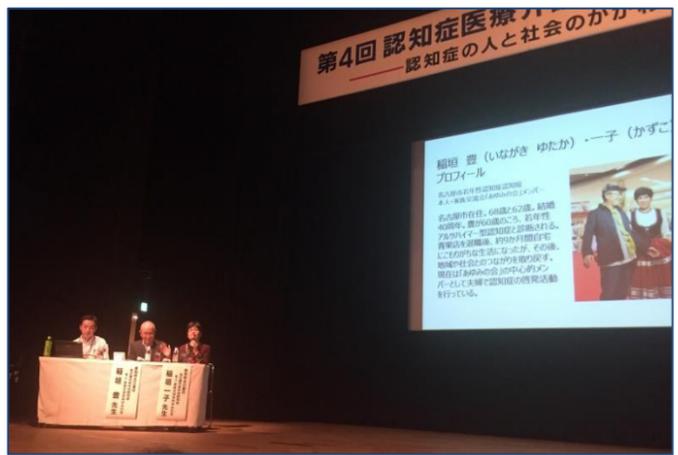


## 認知症当事者の活動の広がり 2月19日認知症医療介護推進フォーラム

名古屋市認知症相談支援センターでは、認知症当事者の活動を応援しています。当事者の思いが活動として形になることで、当事者が元気になることや、当事者が自ら啓発活動を行うことで、認知症への理解がより深まっています。

2月19日、ウインクあいちにて「第四回認知症医療介護推進フォーラム」が開催され(主催・国立長寿医療研究センター、認知症医療介護推進会議)、名古屋市若年性認知症本人・家族交流会「あゆみの会」メンバーの稲垣豊・一子夫妻が登場し、思いを語りました。

稲垣夫妻は、ふたりの共通の楽しみであるインディアカを継続できている背景に、「仲間の理解や地域につながりがある」と話し、「当事者が楽しく生活するために、地域とのつながりが大切だ」と話しました。



フォーラムで当事者としての経験や思いを語る稲垣夫妻。

## すすめ！あなたのまちの推進員(第三回) 独立型キャラバン・メイトとのネットワークづくり

中区



中区では、「中区独立型キャラバン・メイト交流会」を開催し、独立メイト同士の横のつながりの強化と、推進員と独立メイトとの連携に力を入れています。中区は、地域柄、企業を中心として、毎年多くの認知症サポーター養成講座の依頼があります。そこで、推進員の田邊さんは、認知症の啓発を重点事項として、独立メイトと協力し合う関係をつくりたいと考えました。そのための第一歩として、昨年1月に第一回目の交流会を開催。6人の独立メイトが集まり、お互いの活動について情報交換しました。その結果、「企業向けの講座では必ず若年性認知症のことを伝えてほしい」と認知症の方と関わった経験から、実例を交えて伝えてほしいなど、専門職としての強みを生かした伝え方の工夫があることがわかりました。その後、定期的に交流会を開催するなかで、「講座の実施だけでなく、

もっと広く認知症を知ってもらいたい」「幅広い世代へ向けて啓発したい」という声があがり、介護まつりにて認知症啓発の寸劇を披露したり、商店街でのイベントで啓発ブースを出すなど、新たな取り組みにも発展しました。

田邊さんは、「独立メイトとお互いに意見を出し合えるようになったことで、活動の幅が広がりました。メイト専用の名刺をつくったので、メイトのことをみなさんに知ってもらえる機会も増えました。今後このつながりを大切にしていきます。」とおっしゃっていました。



## 名古屋市認知症地域支援体制づくり懇談会の開催

名古屋市では平成27年度から、認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制の構築、医療と介護の連携強化など地域における支援体制のあり方について協議する場として「名古屋市認知症地域支援体制づくり懇談会」を開催しています。医療関係者、介護・福祉関係者、認知症の人と家族の会の方等が参加し、毎回活発な意見交換をしています。

平成28年度は3回開催し、認知症疾患医療センター、認知症カフェ、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員、認知症サポーターの活動支援や家族支援事業をテーマに、各事業の実施状況を確認しながら協議しました。なお、協議内容をまとめ、名古屋市での次の取り組みにつながるよう、市に提言してまいります。

## はい、こちらは認知症「コールセンター」です！

### 『介護保険の申請』

「初期の異変」に関する相談では、介護保険未申請の方が多くいます。27年度実績では認知症の疑いがある方でも、約四割が未申請という状況でした。また、左記のように「介護保険がよく分からない」という相談も多くありました。

- ・どんな時に申請できるか
- ・申請方法が分からない
- ・何が利用できるか など

そのため、介護保険には「予防やリハビリ」、「環境整備や安全確保」などのサービスもあること、相談できる専門職がいることで家族も安心できることを伝え、「先を見据えた早めの介護保険申請」を助言しています。また、ひとつひとつの手続き後に連絡をもらい、次の支援に関するサポートを行っています。

1日あたりの平均相談件数 (29年1月)  
**5.1件**